

## この機械はいったい何が出来ないのかね

中岡 良司



日本赤十字北海道看護大学の中岡です。現在、本学会のホームページ研究委員長を担当している関係で、リニューアルしたホームページの新しいコーナー「会員プロフィール」の第1回原稿を書くはめとなりました。本コーナーは、経歴や趣味を中心とした個人的な情報をご紹介いただき会員間の交流を広げたいというのが趣旨です。出来れば1ヶ月ごとに更新したいものです。皆様の活発なご投稿をお待ちしております。

さて、現在、看護大学に勤めてはおりますが、もともと医療系とは無縁かつ不健康な研究者で、7年前には糖尿病からくる心筋梗塞を患い心臓のバイパス手術を受けました。糖尿病という日頃の健康管理がなっていないという目で見られる大学なので、表向きは健全な生活を心がけ、まあ実際、酒も飲まず、煙草も吸わず、一病息災を心がけております。

前職は北見工業大学の土木系学科に23年間勤めておりました。専門は土木計画学です。若い時、文部省内地研究員として北大の交通計画学講座に1年間国内留学しました。当時の講座教授は故五十嵐日出夫先生でした。留学の際には、当時最新の日本語ワープロ専用機（日本デジタル研究所「文作君Ⅱ世」という機械です）を持参し大いに講座の諸先生の注目を集めました。その頃の学会論文の大半はペンによる手書きで、お金のある研究者だけが和文タイプライターで仕上げていた時代でした。ある日、五十嵐先生が機械を見に来られて、私がキーボードから「いがらしひでお」と入力し変換キーを押すと、一発で画面に「五十嵐日出夫」と表示され感心されたことがあります。今でも日出夫を一発で変換できるワープロは珍しいでしょう。この時は、もちろん私が事前に仕込んでおいたのですが。そして、ワープロ以外でもBASICのプログラムが走ります、こんなことも出来ますあんなことも出来ますと自慢話をしたのでしょう。五十嵐先生が話をさえぎり質問されました。「それで中岡君、この機械はいったい何が出来ないのかね」。

私はしばし絶句しました。そして苦し紛れに「先生。この機械は自分で考えることが出来ません。指示したことを繰り返すだけです。」とお答えしました。すると先生は「そうか、自分で考えることが出来ないのか。そうか。まだまだだね。」と嬉しそうに目を輝かせられました。まるで自分のことを言われたようでした。あれから30余年、私はまだまだです。その後、私は北見工大にもどって、風景や地図や歴史年表など概念的なものを数値化することに興味を持って研究を続け、平成7年、五十嵐先生の後継者となられた佐藤馨一先生（現本学会長）を主査として北大から学位をいただくことができました。学位論文のテーマは「土木計画における非数値データの情報化技法に関する研究」というものです。

時間に余裕のあるときは主に外国作家のサスペンスやミステリーを読んでいます。思えば、この趣味はT・克蘭シーの「レッドオクトーバーを追え」から始まったようです。一時はS・キングに執心しましたが、やがて初期の作品群のみが好きということに気づきその後は敬遠。生きている内に新作が読めるんだろうかと心配しているのはR・D・ウィングフィールドのフロスト警部もの。近年で断トツにおもしろかったのはS・ラーソンの「ミリオネア」3部作。作者が夭折されたのが何とも惜しまれます。その他、常に新作を待望しているのはスカーペッタシリーズのパトリシア・コンウェルや「ゴリキパーク」などロシア物が秀逸なM・C・スミスなど。誰かこれらの作品が琴線に触れた方はいらっしやいませんか。是非、一度ゆっくりとお話ししたいものです。